

**新日鉄の『鉄分供給による藻場再生プロジェクト』が
第1回いきものにぎわい企業活動コンテストで
経団連自然保護協議会会長賞を受賞**

新日鉄の鉄分供給による藻場再生プロジェクト＝海の森づくりプロジェクトが、第1回いきものにぎわい企業活動コンテストにおいて、経団連自然保護協議会会長賞を受賞しました。

1. いきものにぎわい企業活動コンテストとは

(1) 表彰の趣旨

本年、日本で「生物多様性条約第10回締約国会議」いわゆるCOP10が開催され、世界中から一万人以上ともいわれる人たちが名古屋に集まることを契機に、日本企業の豊かな生物多様性の保全や持続的な利用等の実践的な活動を国内外に発信するとともに、特に優れた企業活動を挙げて顕彰するため、新たに創設された表彰制度です。

(2) 主催者

いきものにぎわい企業活動コンテスト実行委員会、経団連自然保護協議会、
(社)国土緑化推進機構、(社)日本アロマ環境協会、(財)水と緑の惑星保全機構、
後援；環境省、農林水産省他

(3) 各種賞の内訳

環境大臣賞、農林水産大臣賞、経団連自然保護協議会会長賞、
(社)国土緑化推進機構理事長賞、(社)日本アロマ環境協会賞、
(財)水と緑の惑星保全機構会長賞、審査委員長賞、審査委員特別賞
・審査委員長 進士 五十八 日本学術会議環境学委員長

2. 当社の藻場再生プロジェクトの内容

鉄鋼生産の際の副産物として産出される鉄鋼スラグと農林業の副産物である廃木材チップなどを利用して、海水中の鉄分不足により「磯焼け」現象が起きている沿岸域を復活させるプロジェクトです。

全国各地の海岸では、海藻が消失して不毛の状態となる磯焼けが広がっています。磯焼けの原因のひとつとして、従来は海藻類が吸収しやすい鉄分が森林から河川を通じて海へ供給されてきたのに対し、森林伐採や河川上流の開発等により、森から海への鉄分供給が減少したことが影響していることが明らかになってきています。

新日鉄はこの森と川と海の連関に着目し、鉄分を多く含む鉄鋼スラグと廃木材チップ

を発酵させた人工腐植土を組み合わせ、生物が吸収しやすい鉄分を人工的に海に供給し、藻場の再生と漁場環境の改善を図る活動を行っています。

2004年に北海道の増毛漁業協同組合、「海の緑化研究会」(*)と共同で、鉄鋼スラグと腐植土を混合したビバリーユニットを実海域に初めて供給しました。その結果、磯焼けで真っ白な玉石が広がっていた海岸にホソメコンブが繁茂し、様々な生物が息づく豊かな海を取り戻すことに成功しました。

この成功を皮切りに、現在では全国約20ヶ所の海域で、自治体・漁業協同組合と共に、鉄分供給による藻場再生プロジェクトに取り組んでいます。

(*)海の緑化研究会：東京大学、エコ・グリーン、西松建設、新日鉄等が参加

3. 未来に向けた技術開発

ビバリーユニットは、海藻育成による環境改善や生物多様性の復元に留まらず、海藻の繁茂により海域環境が改善され、魚類、貝類の餌や棲家、産卵場所となることで漁獲高も向上し、漁港をはじめとした地域社会の活性化にも繋がり、日本の食料自給率も向上するなど、様々な効果が期待されます。更に、海藻類がCO₂を吸収することにより温暖化防止にもなる上、枯死した海藻を回収してバイオエタノールや樹脂を生産することにより、新規エネルギーの開発も可能と考えています。

今後、新日鉄は、グループの総合力を発揮して、生育した海藻類のCO₂吸収量の測定や海藻のバイオエタノール化、樹脂化等の未来に向けた技術開発に取り組んでいきます。

(本件に関する問い合わせ先) 総務部広報センター TEL : 03-6867-2135

実海域における実証実験 (北海道増毛町)



ビバリーユニット投入前 (H16/7)
磯焼け状態

ビバリーユニット投入後 (H17/6)
コンブの生育を確認

